



中西 顕治

## 学校教職員の長時間勤務を

### 解消するには

**問** 教員勤務実態調査によると、全国平均で学内勤務時間が過労死ラインの80時間を超える教員は小学校でも3割以上、中



学校で5割以上という報告が出ている。本町の実態はどうか。  
**答** 教育委員会が把握している時間外勤務80時間以上の者、本年1月の1カ月間において、小学校では28人中3人、10.7%、中学校では29人中9人、31.0%である。

**問** 国が示す働き方改革の実行計画での上限、原則月45時間、年間360時間を実現するための教育委員会の計画はあるか。

**答** 児童、生徒にとって、教職員が常に元気がつらつとして生き生きとした状況で子どもの前に立つということが学校教育にとって一番大事なことである。



そのために教職員に疲労が蓄積しないように、自らの職場環境を明るく楽しいものにするように、日ごろから管理職会

を通じて話をしている。

具体的には、タイムカードを導入し、勤務時間の管理を行うことや、管理職も含めて一斉に閉庁できる日の設定を検討している。



中学校では、クラブ活動の指導が時間増大の主要因となっていることから、4月から運動部活動の指導員を配置して、勤務時間の短縮を考えている。

## 一般質問



平田 要

### 住民の移動手段等の 仕組みづくり

**問** 交通空白地有償輸送制度の広域的な設定について問う。

**答** 既存交通との相互補完の観点から、直ちに区域を広域化することについては慎重な検討が必要であると認識している。

**問** 移動支援の仕組みづくりに関して問う。

**答** 社会福祉協議会を通じて、移動支援を含む住民の共助による活動を支援していく。

**問** 運転免許証返納者及び高齢者等に対する公共交通機関の運賃助成について問う。

**答** 高齢者等に阪急バスの定期券サービスが提供

- 一、住民の移動手段等の仕組みづくり
- 二、森林資源の有効活用
- 三、企業立地促進に向けた環境整備や社会資本整備

されている。広報紙等を通じて周知に取り組む。

**問** 国道477号線バイパスの路線バス運行コースの変更について問う。

**答** 当該路線の見直しについて、地域の意向を踏まえながら、必要に応じて交通事業者と協議を行っていく。

### 森林資源の有効活用

**問** 木質バイオマスの多面的な利用について問う。

**答** 友好都市吹田市や関係機関、ボランティア団体と連携し、社会実験「木の駅プロジェクト」に取り組み。また、フレンドシップ協定をベースに都市住民とのグリーンツーリズムを通じた仕組みづくりに努めていく。

されている。広報紙等を通じて周知に取り組む。

### 企業立地促進に向けた 環境整備や 社会資本整備

**問** 企業立地促進に向けた検討状況について問う。

**答** 敷地面積5000㎡未満の新たな審査基準について府と協議を行っている。優遇制度の創設については、補助要件の検討段階にあり、引き続き企業ニーズの把握や産業立地の促進に努めている。今後は地元への理解を得ながら推奨できる地域を選定していきたい。

